

| | | |
|----------|--|---------|
| 書名 項目 | NEW HORIZON English Course | 2 東書 |
| 内 容 | <p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」で構成され、スモールステップを積み上げて「Unit Activity」につなげ「Stage Activity」として統合的な言語活動が3回設定されている。 ○生徒がイメージしやすい実生活に即した題材を通して、4技能の習得を図ることができるように「Real Life English」が設定されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元のPart1・2では「目的・場面・状況」を意識しながら自己表現に取り組み「Read and Think」ではポイントを3回変えて読むことにより概要や詳細を理解、整理し「Unit Activity」で表現につなげるよう構成されている。また、「Stage Activity」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばすよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の「Activity」で積み上げた表現を生かし、目的や場面、状況をイメージして活動しやすいようになっている。多様な価値観への気付きを促す「ダイバーシティメモ」で異文化への好奇心や多様性への理解を深めたり SDGs や今日的課題、日本の伝統・文化等に目を向けさせたりする題材に工夫が見られる。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の扉のページに単元のゴールが示され、単元末の「Unit Activity」で振り返る形となっている。巻末の「CAN-DO リスト」には領域別の目標が示され1～3の単元で構成された「Stage Activity」との関連が分かるように工夫されている。 ○単元ごとに Key Sentence を中心とした Practice, Activity, Unit Activity で4技能をバランスよく扱うよう工夫されており、単元のまとまりを重視した「目的・場面・状況」を意識した学習の流れとなっている。 ○言語活動において表現の幅を広げる語彙等が Tool Box という形で取り入れられている。New Words においては発信まで使えるようにしたい語を太字で表記している。 </p> | |
| 資 料 | <p>○巻頭には、1年間の学習の流れが示され学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「語順カード」が掲載されており、絵・色・形で分類された単語カードをヒントに文が組み立てられるよう工夫されている。</p> | |
| 表記・表現 | <p>○1年生ほぼ全編を通して手書きに近い独自のフォントを使用し、2年生以降は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を青色で併記している。</p> | |
| 総 括 | <p>○「Activity」を軸として、英語で伝え合う心豊かな体験を積み上げ、自分の言葉で他者とコミュニケーションできる喜びを実感できることに重点を置いている。積極的に世界とつながろうとする心を育てようとする内容となっている。</p> | |

| | | |
|------------------|---|---|
| <p>書名 項目</p> | <p style="text-align: center;">Sunshine English Course</p> | <p style="text-align: center;">9 開隆堂</p> |
| <p>内 容</p> | <p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元は「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review and Retell」「Action」で構成され、4技能を繰り返し学習できるよう工夫されている。繰り返し学習することで使い方に慣れさせ、学期末の協働学習「Our Project」に繋げるよう構成されている。 ○各単元の前半(Scenes)において、自然な会話形式で新出文法や表現が導入されており、実際のコミュニケーションを意識した構成になっている。 ○各単元の「Scenes」で理解した表現を「Listen」「Speak & Write」の活動を通して使い方に慣れ各技能を伸ばすことができるようになっている。「Step」ではスピーチの構成や簡単な表現への言い換えなど「Our Project」に役立つ学習が設定されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに「Review & Retell」で内容を整理し、「Action」で題材に関連した自己表現活動につなげる工夫がなされている。また、既習事項を活用した4技能を統合した活動として協働的な学びとなる「Our Project」が設定されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○知的好奇心をくすぐる Coffee Break で英語が好きな生徒も苦手な生徒も楽しく学習できたりする工夫が見られる。 ○日本の伝統文化や異文化、SDGs と関連した題材等、多面的な視点から豊かな感性を育む題材が数多く取り上げられている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の扉で単元の Goal が明記され、できるようになることが確認できるなど見通しをもって学習できるようになっている。 ○「目的・場面・状況」を大切にした言語活動として各単元に「Review & Retell」「Action」を配置し、単元の間にはリアルな場面設定で4技能5領域の統合的な言語活動を行う「Power-Up」が設定されている。 ○言語活動に必要な語彙が Word Box や Express Box 等に取り上げられている。New Words では、発信まで使えるようにしたい語を太字で表記している。 | |
| <p>資 料</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には、3年間を通した目標と、1年間の学習の流れが示されており、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には絵や単語がかかれた「アクションカード」が掲載され、ペア学習や会話活動時に使えるよう工夫されている。 | |
| <p>表記・表現</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○1年生前半は小学校と同じ手書き書体、後半は手書きに近い独自のフォントを使用している。2、3年生では一般的な書体を使用している。各学年共通で、アクセントは各単語に赤色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。 | |
| <p>総 括</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○「Our Project」を軸として、習得した知識・技能を使って自ら考え行動し、目標に向かって自己表現することに重点を置いている。 ○学びに向かう力と豊かな人間性を育て、世界に羽ばたく生徒の育成を目指し、英語を学ぶ楽しさを体感し、生涯に渡って学び続け「わかる」から「楽しい」を感じる工夫がなされている。 | |

| | | |
|------------------|---|-------------------|
| <p>書名 項目</p> | <p>NEW CROWN English Series</p> | <p>15 三省堂</p> |
| <p>内 容</p> | <p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「とびら」「Part」「Side Story」「Small Talk Plus」「Goal Activity」で構成され、段階的に学びを積み重ね、「Project」において統合的な言語活動を行い総合的な英語力が習得できるよう工夫されている。 ○各学年「Language Focus」というページがあり、ターゲットとなる文法が丁寧にまとめられ視覚的に捉えやすい工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各「Part」の冒頭に既習の表現を使って題材に関連する身近な話題について即興のやりとりする「Small Talk」があり「Part」の後には「Small Talk Plus」として表現を工夫しながら即興でやり取りし会話を長く続けたり議論を深めたりする工夫がされている。 ○「Goal Activity」では、目的・場面・状況に合わせた実践的な自己表現につなげる工夫がなされ、「Project」では単元の既習事項を活用し4技能を統合した活動を通して事実や自分の考えを整理して話したり書いたりするよう構成されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○物語や説明文などを読んで世界の言葉や文化への興味・関心を高めたり社会的な課題について考えたりする特集や題材が用意されている。 ○題材が他教科とのつながりがあったり生徒に親しみやすかったりするものも多く生徒が違和感なく文法や単語に触れるきっかけになっている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の最初のページの「Lesson Preview」や「Small Talk」では、身近なことについて、伝え合う場面が設けられている。単元末の「Goal Activity」では構成や話し方を工夫して取り組むことができるよう配慮されている。 ○「Take Action!(Talk, Listen, Read)では、概要や要点を読み取ったりその場に合った表現を使ってやり取りをしたりと、既習事項と結びつけて学習することができる。 ○言語活動において必要な語彙が「Word Bank」「Tips!」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</p> | |
| <p>資 料</p> | <p>○巻頭には、この教科書の「しくみと学び方」が示されており1年間の学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「会話表現」が掲載され、会話に有効な表現が紹介されている。</p> | |
| <p>表記・表現</p> | <p>○1年生全編を通して手書き文字に近い独自のフォント、2年生以降は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に黒色で付記し、発音記号は巻末に青字で掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を併記している。</p> | |
| <p>総 括</p> | <p>○英語教育を通して、国際社会に対応できる資質・能力と豊かな人間性を育てようとする内容となっている。</p> | |

| | | |
|----------|--|--|
| 書名 項目 | ONE WORLD English Course | 17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div> |
| 内 容 | <p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「扉」「Part」「Task」「Grammar」で構成されている。「Grammar」ページの「How to Use」で、文法の解説と整理、対話練習が設定されている。学期末の「Project」では、統合的に活用できるよう工夫されている。 ○「Tips」では4技能の技能を高めるためのコツを扱い知識にとどまることなく英語の本質に関わるアドバイスが提示されている。「Useful Expressions」では日常的な場面を設定し、「生きて使える」英語表現に慣れ親しむことができるようになっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Part」で言語材料を習得し「Think & Try!」と「Read & Try!」で理解を深め、「Task」で自己表現活動につながるよう構成されている。また、「Project」では既習事項を活用し、統合的な言語活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元末に「Task」と「Grammar」を配置し、学習した内容を自ら振り返り確実な定着が図れるよう工夫されている。身近な話題を中心に多様な社会や文化、SDGsとの関連、教科横断的な学びが可能となるような題材が多く用意されている。「まなびリンク」では、生徒の多様な興味や学びに応じたサポートが用意されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○「生きた英語」の習得に向けて、「即興的なやり取り」の力を伸ばす「Activity Plus」や4技能5領域のコツを習得する「Tips」、日常的な場面を設定し生きて使える英語を学ぶ「Useful Expressions」が用意されている。 ○「Think & Try!」では内容理解を深めた本文を利用して「やり取り」の練習ができたり「Task」では、話したり、書いたりする活動を通じて、自分の考えなどをクラスメイトと発表・共有したりする活動ができるよう工夫されている。 ○言語活動において必要な語彙が「Tool Kit」「Tips」等に取り上げられている。「Word & Phrases」では発信まで使えるようにしたい語彙が太字で表記されている。 </p> | |
| 資 料 | <p>○巻頭には1年間の学習の流れが示され学習の見通しがた立てられるよう工夫されている。巻末には学習到達目標を自分で確認することができるよう「Can-Do 自己チェックリスト」が掲載されている。</p> | |
| 表記・表現 | <p>○1年生前半は手書きに近いフォント、後半はブロック体を使用している。2年生以降は活字体を使用している。1年生はアクセントは各単語に付記し発音記号は巻末に掲載している。2・3年生はアクセント、発音記号を併記している。</p> | |
| 総 括 | <p>○「Project」を軸として、明確な目標を意識しながら主体的に学び、考え、伝え合うことに重点を置きながら学習内容が完結するよう構成されている。学びの力で人と社会を未来へつなぐ力を育み、英語を使って世界で生きていく人材を育くもうとする内容となっている。</p> | |

| | | |
|----------|--|-----------|
| 書名 項目 | Here We Go! ENGLISH COURSE | 38 光 村 |
| 内 容 | <p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「扉」「Part」「Goal」で構成されている。「Part」はページ左側のストーリーと右側の活動とで「使用場面」「働き」が一致した基本文を繰り返し練習することができるよう工夫されている。繰り返し学んだことを生かして取り組むまとめの活動として到達目標の達成度合いを見取る「You Can Do It!」が用意されている。 ○「Part」の基本文の文構造や文法事項について丁寧に説明されている。Active Grammarでは本文中に出てきた表現を再掲し「場面と意味」を本文と関連付けながら押さえながら文法事項について学んだり整理したりできる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○既習事項を活用し4技能を統合した活動を通して思考力、判断力、表現力を高める「You Can Do It!」が配置されている。 ○実社会の言語使用場面で役立つ力を身に付ける「Daily Life」では領域統合型の活動も設定されている。また、自分や相手のことについてその場でやりとりする「Let's Talk!」や自分の言葉で説明・描写する力を育てる「Story Retelling」が設定されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「自分ごと」として捉えやすいストーリーに加え番外編を描いたExtra Storyが用意されており「もっと知りたい、学びたい」という主体的な学びにつながる工夫がなされている。世界を多様な視点で見つめ多文化・多言語共生の意識を育む「World Tour」、SDGsや教科横断的な学びを可能とする題材が幅広く取り上げられている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元で、基本文に関連した即興的なやり取りを練習できる活動が設けられている。「Let's Talk!」では、即興的なやり取りの力を継続的に高め、「You Can Do It!」では、発表活動を通してスピーキング力を育てられるよう工夫されている。 ○言語活動において必要な語彙が「Key Phrases」「Key Words」等に取り上げられている。新出語句を扱う「Words」において、発信語彙が太字で表記されている。 ○「Idea Hunt」や「TIP」では、生徒が本文を活用しながら自分なりに表現できるよう工夫されている。 </p> | |
| 資 料 | ○3年間を通じて「できるようになること」を系統的に設計し、見通しをもって学習を勧められるよう、各学年、各学期、各教材の目標を明確に掲示している。また、既習事項をスパイラルに活用できるように構成されている。 | |
| 表記・表現 | ○1年生前半は独自の手書き体、後半はブロック体とセリフ体を併用して2年生以降にっなげている。1年生では、アクセントは各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を青色で併記している。 | |
| 総 括 | ○各学年3カ所（各学期末）にまとめの活動としてYou Can Do It!が設けられており単元の学習が定着するように構成され、既習事項を繰り返し活用して取り組める内容となっている。 ○英語を使う目的・場面・状況がわかりやすく、楽しみながら基礎・基本を身に付け思考力・判断力・表現力を磨いていけるような学びの原動力となるストーリーになっている。 | |

| | | |
|------------------|--|--------------------|
| <p>書名 項目</p> | <p>BLUE SKY English Course</p> | <p>6 1 啓林館</p> |
| <p>内 容</p> | <p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」で構成され、各学期末に行う「Project」では4技能統合型の言語活動が行えるよう設定されている。 ○「Part」では「Target」を含む本文を聞き、生徒の気づきを促し、例文や解説からどのような状況で新出文法を使用するかを理解して「Listen→Speak→Write」の順で目的・場面・状況に応じ使う練習を行うよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「Read/Listen & Think」「Think & Speak/Write」では目的意識を持って「読む/聞く/話す/書く」ことにつなげ、内容を整理して自己表現したり相手に伝えたりする活動を通して思考力・判断力・表現力を育成するよう構成されている。 ○既習の知識・技能を活用して4技を能合した言語活動「Project」をとおして思考力・判断力・表現力を育成するよう工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○生徒が自分自身で英語学習を進めていくために学習に役立つコツを紹介する「英語の学び方」や文構造や文法を丁寧に解説している「Focus on Form」が用意されている。 ○生徒の興味・関心を引きつける題材やSDGsを含む今日的課題についての題材など、生徒の世界を広げ深い学びを実現するよう工夫されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○「Let's シリーズ」では実生活に即した場面を想定して設定され、目的・場面・状況に応じた活動を行い、即興的なやりとりやまとまりのある文章を書くなどの各技能領域の力やコミュニケーション能力を育成するよう工夫されている。 ○言語活動において必要な語彙が「Tool Box」に取り上げられている。新出語句を扱う「Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</p> | |
| <p>資 料</p> | <p>○巻頭には、教科書の使い方が示されており、1年間の学習の進め方が分かるよう工夫されている。巻末には「CAN-DO List」が掲載されており、学習の達成度を自己評価できるよう工夫されている。</p> | |
| <p>表記・表現</p> | <p>○1年生はUDフォント、2年生以降は Century Schoolbook を使用している。1年生はアクセントを各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセントと発音記号を併記している。カラーユニバーサルデザインへの配慮がある。</p> | |
| <p>総 括</p> | <p>○各単元の目標（Input & Output）が明記され、生徒が見通しをもって学習が進められるよう工夫されている。</p> | |